

日印インド太平洋フォーラム

「インド太平洋の未来形成におけるインドと日本の影響力と将来性」

ナマスカール（Namaskaar）。こんにちは。外務大臣の上川陽子です。

第6回「日印インド太平洋フォーラム」の開催をお祝い申し上げます。インドの皆様は、東京にようこそお出でくださいました。

私は9月に外務大臣に就任しましたが、以前から、日印友好議連に所属する等、インドとの関係を推進してきました。

私の地元である静岡県には、1980年代にいち早くインドへ進出し、日印友好の懸け橋の象徴でもあるスズキの本社があります。また、静岡県は、19世紀後半にインドで紅茶の製造技術を学んだ多田元吉が茶業を営んだ場所でもあります。私自身、このようなご縁を大切にしながら、日印関係を更に盛り上げていきたいと考えております。

さて、今、国際情勢は大きな変化に直面し、我々は歴史の転換点に立っております。ロシアのウクライナ侵略、イスラエル・パレスチナ情勢をはじめ、世界各地で深刻な事態が多発しております。また、日本周辺においても、一方的な現状変更の試みや、北朝鮮の核・ミサイル開発の進展などがあり、我が国を取り巻く安全保障環境は戦後最も厳しいものになっております。

このように国際秩序が多くの挑戦に直面している中、基本的価値と戦略的利益を共有する「特別戦略的グローバル・パートナー」である日印両国の連携は益々重要になっておりま

す。日印間では、本年だけでも首脳会談を3回実施し、二国間関係から地域・国際情勢に至るまで、幅広く議論を重ねてきました。私自身、大臣就任直後の9月の国連総会で、ジャイシャンカル外相と会談を実施し、地域や国際社会の諸課題への対応について両国で一層連携していくことを確認しました。

本年は日本がG7、インドがG20の議長国をそれぞれ務めております。来年もまた、日米豪印の外相会合を日本が、首脳会合をインドがそれぞれホストする年であり、引き続き両国が連携してインド太平洋、そして国際社会を共にリードすることになります。

そうした日印間の絆は、両国政府の間でのみ深められるものではありません。新しい時代において、経済、社会の幅広い分野で、関係を強化していくことが重要です。国民同士の対話も強めていく必要があります。中でも、日印間の知的対話の強化は、両国のみならず、世界全体にとっても大きな意義を有しており、今回6回目となる「日印インド太平洋フォーラム」は、そのために大きな貢献をして来られました。皆様のこれまでのご努力に心からの感謝と敬意の念を表したいと思えます。

今次会合におきましても、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向け、日印両国がどのように取り組んでいくべきか、本日ご臨席の皆様の間で活発な議論が行われることを期待しております。

ダンニャワード (Dhanyawaad)。ありがとうございました。
(了)